

形ヲ當テ紅藍等ノ霧ヲ下シ、紙形ヲ除ケバ下圖ノ如クナル、○圖

蛇ノ目ノ如ク央ト周リヲ藍紙ヲハリ、中間ヲ紅霧紋ニシ、或ハ中間紅ギリ紋周ト央ヲ藍霧紋ニ

シタルモアリ、又蛇ノ目ノ如ク、淺黃紙中間キリニ非ル淺紅ノ紋形紙ハルモアリ、

〔我衣〕下リガサ、厚紙ニテ細工ブトウナリ、ツヨキ糸セウゾクナシ、竹アラ削リ丸キ判アリ、

下リ女ガサ、少シ小ブリ、糸セウゾクナシ、ウス花色ガミニテ、蛇ノ目ノヨウニ作ル、下作ナリ、

〔諸色直段引下〕真諸色引下ゲ直段書

下リ傘

去子（元治元年）六月書上直段、拾本ニ付銀貳拾八匁五分、  
一、下リ傘

今般慶應元年引下直段拾本ニ付  
銀三拾九匁貳分

但當時直段四拾匁 内八分直下ゲ

〔我衣〕真享ヨリ地ノモミヂガサキヤシヤナリ、天上青紙青ドサニテ細クヘリヲ取、絹糸セウゾク、

柄、ト卷

〔嬉遊笑覽二中〕紅葉がさ、○中 雨傘を紅葉といへるも、すげ笠のもみぢより名付しなるべければ、

是又始めは日がさに用ひしにや、然らば青傘のもととなるべし、

〔守貞漫稿三十〕傘真享以來、江戸ニテ製ス紅葉傘アリ、○圖中央骨ツガヒ 青土佐紙外白紙バリ、糸装

束アリ、柄藤卷、精製也、○中

江戸ハ澀蛇ノ目モ用ヒズ、白ノ紅葉傘也、紅葉傘ハ精製ナルノ名也、乃チ骨數凡六十間ノ物、○中略

江戸市民、白紅葉傘ヲ専用トシ、或ハ稀ニ周リ二寸餘淡墨ニスルモアリ、又ホン傘ト云テ、骨竹ヲ

細クシ、一握ニテ或ハ腰ニ差ベキ物アリ、極精製也、價銀十匁ヨリ十五匁計也、○中

近年江戸白紙モミジ傘ニ骨數少キ者アリ、雨傘也、鬼骨傘ト云、又骨竹半ヨリ二ツニ割テ左圖○

略ノ如ク菊形ニ製スモアリ、蓋此二品ハ稀ニ好數人用之ノミ、菊形骨江澀張等ノ日傘ニモ有之、